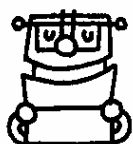


空気中の酸素の割合は、どのくらいなの



酸素は約5分の1、残りの約5分の4は、ちっ素と覚えておくといいのさ。

空気は、いろいろな種類の気体が混じっています。体積の割合でいちばん多いのは、ちっ素で78%、次に多いのが酸素で21%、3番目はアルゴンで1%といったぐあいです。残りは、二酸化炭素の約0.03%以外は、ごく少ない成分です。

ですから、酸素の割合は、およそ5分の1で、体積で20%と覚えておけばいいでしょう。

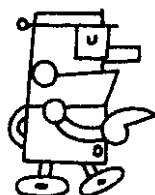
空気中の酸素は、植物がつくり出した

地球ができたばかりのころの空気は、酸素はほとんどなく、火山のふん火で出てきた気体が大部分だったといわれていますが、はっきりはわかっていません。

海で生き物が生まれ、進化が進み、植物がたくさん現れて、光合成（葉の中で、日光の助けをかりて、水と二酸化炭素から、デンプンや酸素をつくり出すはたらき）を行うようになってから、空気中に酸素ができたと考えられています。そして、今いる酸素を呼吸^{こきゅう}する動物が、生きられるようになったのです。

ちっ素は、昔からあったため、空気の成分の大部分をしめているといえます。

酸素は、生き物の呼吸や、燃料を燃やす（ジェット機や自動車のエンジンもふくむ）ときなどに、大量に使われていますが、植物や海そうなどがつくり出す酸素の量と、使われる量のバランスがとれていて、空気中での割合は、あまり変化しませんでした。けれども、最近は、使われる酸素の量や、酸素が燃えてできる二酸化炭素の量がふえてきて、空気中の成分の割合も、変化することが心配されています。



空気中の酸素は、ほとんど、植物がつくったといわれている。たいしたもんさ。